

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室きらり桃花台校		
○保護者評価実施期間	2024年12月1日 ～ 2024年12月25日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2024年11月1日 ～ 2024年11月15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月10日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士資格を持ち福祉分野の経験のある指導員が多く、専門性が高い。個別支援計画に基づき指導員が支援内容を工夫し充実した療育を提供している。	個々の発達段階や保護者のニーズに応じた活動内容を考え、季節に合わせた支援プログラムを提供している。また、児発管や指導員が活動のアイデアを出し合い、互いに情報交換をしながら指導員同士が学び合う機会を常に設け、創意工夫された支援プログラムを提供している。	きらり内の研修を積極的に受けたり、他事業所の研修などに参加し、自己研鑽に励んでいる。また、本やインターネットなどの情報を積極的に取り入れ、職員間でも良い教材や活動内容を共有し、個々の発達段階に合わせて取り組めるように支援していく。
2	広い療育室で支援を提供できる。	個別療育で使用する各部屋が広いので、机上の活動だけでなく、粗大運動やサーキット遊びなどものびのび行うことが出来る。また、他児の影響を受けることなく落ち着いて活動出来る。	一番広い独立した部屋を皆が使えるように職員間で話し合い、偏らないよう心がけている。
3	保護者や利用者に寄り添った支援や家族支援の提供	保護者の送迎でのご利用のため、毎回顔を見て話すことが出来、支援の後のフィードバックを丁寧に行っている。その際、保護者からのお悩みやご相談を伺うことが多いので、その都度対応している。また必要に応じて主に児発管が時間を設けて保護者のご相談を伺い家族支援を行っている。	保護者からもっと気軽に相談できるようにこちらから声をお掛けしたり、進学や進級のタイミングにお話を伺う機会を設けていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児発利用者が少なく、主に学習のサポートをしてくれるところだと認識されている。早期療育の大切さを伝えていく。	クラゼミのイメージが強く、学習のサポートをしてくれるところだと周知されており、小中学生の希望者、利用者が多い。また利点でもあるが、安心して長くご利用いただいている方が多く、必要に応じてご卒業に向けてのサポートが必要だと思われる。	保育士の資格を持つ指導員も多く、部屋も広いので、児発のご利用者がのびのび活動出来ることをもっと関連機関にアピールしていく。
2	駐車場が狭い。アスファルトが陥没しているため、止めにくい箇所がある。	利用時間が重なると、駐車場のご利用時の入れ替えなど危ないことがある。また止められない時は、路上駐車など近隣住民の車の通行の妨げになる時もある。	手の空いた職員や管理者が交通整理を行い、事故発生を防ぎ、他の利用者や近隣に迷惑のかからないような対応を心がけている。
3	地域との交流が薄い。	校舎内で活動しているため、外出する機会がなく、他事業所や児童館などとの交流がない。	市役所や交流センター、園や他事業所などにきらりのことを理解していただき、興味のある保護者にご見学や体験の機会をお知らせしていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」桃花台校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 9

回収数

9

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9				広い部屋での個別支援がありがたい。	ご利用が偏らないように、活動や設定に応じて皆さんが使えるようにする。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	9				適切だと感じる。	基本は担当制だが、複数の指導員が関わり支援内容が偏らないようにしたり、指導員が欠席した時にスムーズに対応できるようにしていく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7	1		1		シンプルな部屋で気が散らないように玩具や支援用具が目に入らないように配慮している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	9				広い部屋でのびのびと活動出来る。	支援前後に片付けや活動の準備を行い、消毒や換気を徹底している。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8	1			得意なことも苦手なことも声かけで導いてくれているので、本人が楽しそうにしている。根気よく興味を広げようとしてくれていてありがたい。	複数担当制の利用者については支援内容や利用者の様子を踏まえて適切な支援内容を考えている。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9					適宜支援内容の見直しを行っていく。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9				作成されていると思う。	指導員から利用者の様子を聞き取ったり保護者のニーズを定期的に確認した上で支援の見学を行い個別支援計画を作成している。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8			1		児童発達支援ガイドラインに沿った支援計画を示した上で具体的な支援内容を設定している。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8			1	行われている。	指導員の支援内容を確認し、利用者の支援計画に沿った支援が行われているか確認している。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9				1日の支援の中に、5項目ほど活動を組み込んでいただいている。毎回様々な活動を楽しみにしている。いつも楽しい内容をありがとうございます。	
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	1	3	2	それが必要だとは思わない。	現在交流する機会はない。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9				契約の時などに説明があった。	契約時やその他必要に応じて適宜説明を行う。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9				計画を見返せるようにスマホ管理にしていたとありがたい。	スマホの管理ではなく、紙媒体での説明を丁寧に行っていく。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	1	1	2		ご家族に対して研修やペアレントトレーニングの機会を設けていきたい。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	8	1			いつもごく丁寧に活動内容を伝えてもらいありがたい。	指導員からフィードバック時に利用者の状況をお伝えし保護者からも日頃の様子を伺い情報共有していく。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	1			児発管と面談をする雰囲気落ち着く。またアドバイスもありがたい。	より多くの保護者と定期的な面談が出来るようにしていく。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9				出来なくても否定せず、気持ちを安定させる声かけをしてもらっているように感じる。	どの職員も保護者や利用者寄り添った支援や言葉かけを行っている。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	3	1	4		父母の会は行ってない。ご兄弟でのご利用がある時は、クッキングやイベントなどで必要に応じて一緒に支援している。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8			相談できる場があるのはありがたい。	担当職員へ相談があった場合、児発管に報告し、相談窓口につなげている。	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8	1		いつも丁寧に活動の様子を伝えてくれ嬉しいです。	利用者のそばでフィードバックを行う時は、プライバシーなどに配慮し、場合によっては本人の前ではなく電話やメモなどでお伝えしている。	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5				4	ブログを定期的に更新し、活動内容の様子をお知らせしている。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9			気をつけて取り組んでくださっている。	今後とも外部の目線で校舎全体を確認し、個人情報の扱いに配慮していく。	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6			実施されているようだが、うちの子の時にもやってほしい。	曜日や時間を改めて実施し、なるべく多くの利用者に経験していただく。	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6	1			2	避難訓練の様子をブログや掲示物で周知していく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8	1		されている。	より安全に支援出来るように心がける。	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7	1		今のところケガなどはないが、説明は聞いている。	安全面にも最新の注意を払って利用者の支援を行っていく。	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	8			嫌がることなく安心感があると思う。先生たちが大好きで慣れ親しんでいる。	嬉しい言葉を励みに職員一同頑張っていきたい。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	8	1		毎週楽しみにしている。担当の先生方が大好き。「きょう、きらり？」が口癖。きらりの前に行くくと嬉しそうに笑顔になる。	楽しく継続してご利用していただけるよう頑張っていきたい。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	9			とても満足している。これからもよろしくお願い致します。先生方いつもありがとうございます。	今後も楽しくご利用していただけるように、支援内容を充実させていく。	

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」桃花台校		公表日		2025年 2月 15日	
		チェック項目		工夫している点		課題や改善すべき点	
		はい	いいえ				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		大きな部屋があり、各支援室の広さが十分にあるため、机上の活動だけでなく身体を動かす活動も常に設定出来る。	支援内容によって設定を変えたり、利用児が偏らないように皆が広い部屋を使えるよう話し合っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		適切である。追加の支援や振替が行いやすくなったため、職員の欠席についても早めに対応出来ている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		段差はあるが移動に困る利用児はおらず特に問題はない。2階の療育室を使用する時は、職員が手を繋いだり安全に配慮して移動。	引き続き、安全面に最新の注意を払い、移動などの見守りを行っていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		物が出ているときや大型の玩具など気になりそうなものは布などをかけて気が散らないような工夫をしている。	環境整備を含め、朝と支援後には空気の入替えや消毒を行い感染症予防にも努めており、年間を通じて継続していく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		個別支援が主のため、利用児や設定に合わせた広さの部屋を使い、のびのびと活動出来ている。	様々な活動に合わせて片付けや設置を協力しながらスムーズに行っていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		定期的に話し合いを行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		事業所評価を職員間で共有し、業務改善に繋がられるように話し合っている。	保護者のご意見を踏まえた上で、出来ることから改善していきたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		職員の意見を会議等で把握し、改善出来るようにしている。	職員の意見等を会議だけでなく、日常的に把握しながら業務改善に繋げていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		社内の事例検討や研修、外部の研修に参加、もしくは資料を閲覧し職員の自己研鑽につとめている。	支援で忙しい時は調整しながら社内外の研修に参加できるようにしていく。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		適切に支援プログラムを作成している。	今後も利用児の発達段階に合わせた支援プログラムを適宜作成し公表していく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		定期的に利用児の課題や保護者のニーズを確認し、支援計画を作成している。	今後も発達段階に合わせたアセスメントを行い、支援計画に反映させていく。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		担当者会議を設け、支援内容を指導員と共有した上で個別支援計画を作成している。	必要に応じて担当者会議を設け、支援内容や今後の見直しについて話し合い、支援計画を作成していく。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		行っている。	計画に沿った支援が適切に行われているか、児発管が支援の見学に入り指導員に助言を行っていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		行っている。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のならい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		行っている。こどもの状況によって重なる部分は兼ね備えた支援内容を設定している。	利用者の支援に必要な項目と具体的な支援内容が設定されているか見直しを行う。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		小集団活動などでは、必要に応じてねらいと活動内容を明確にし、話し合っている。	小集団やペア活動などでも利用者に合わせてプログラムの立案を行っていく。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		発達段階や季節によって支援内容を工夫しながら活動プログラムが固定されないように工夫している。	職員同士が支援内容の話し合いをしたり、他児の見学をしながら活動プログラムが固定化されないようにする。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		クッキングや季節のイベント、小集団活動を取り入れ、個別だけではなく、他児との関わりの機会を作っている。	個別の課題と集団活動での課題やねらいを明確にして支援を行っている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		支援内容に合わせて部屋を設定したり、役割分担や準備、片付けを行っている。	なるべく短時間で打ち合わせが行えるように日頃から他児の支援内容を把握した上で連携出来るように。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		その日が難しいようなら、翌日に支援の振り返りを行っている。	振り返りを踏まえて課題や気づいた点について職員間で共有していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		誰が見ても分かるようにまとめて書くように努めている。	記録を早めに書くように声をかけ合っている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		6か月ごと、もしくは適宜見直しを行っている。	見直しの時期を忘れないように定期的に確認していく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児発官・管理者が行っている。	サービス担当者会議や関係機関との会議の内容を職員にも共有していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	市の子供連絡会にて障害福祉の連携を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	子供の成長に合わせて併行利用や移行、卒業を意識した支援を心がけている。また、必要に応じて園などと情報共有を行っている。	一部の利用者に限られることなく、必要に応じて情報共有を行っている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	必要に応じてスマイルブックの作成を勧め、当事業所での様子をお伝えし情報共有と相互理解を図っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	3	発達支援センターが主催の研修などで学ぶ機会を設けている。	助言を受けることのできる機会は多くないため、貴重な機会ととらえていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6	特に行っていない。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		毎回のフィードバックが難しい時は、メモを渡したり、次回にお伝えする時間を設けている	実際の支援場面のご見学をしていただき、そこでフィードバックを行う機会を積極的に設けていく。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	保護者同士が交流できる機会を作りたいと思っているが、なかなか全体に向けての取り組みがなされていない。要検討。	お仕事やご家庭の事情もあり、なかなか研修などの時間設定が難しいため、検討していく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に保護者様に説明している。	その他必要に応じて変更があった場合に保護者に説明していく。
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		作成にあたりご家族の意向を確認、納得したうえで保護者サインをいただいている。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		作成後、ご確認いただき納得されたうえで保護者サインをいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		支援者がフィードバックを行う際に保護者の悩みを伺い、助言を行ったり、必要に応じて保護者様のお話を伺う機会を設けている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	5	保護者の交流は今後出来ればよいと考えている。また兄弟児のご利用の場合は、定期的と一緒に活動する機会を設け、それぞれの発達段階に応じて支援内容を工夫している。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		必要に応じて行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		定期的にブログで発信している。	利用者や保護者に積極的に周知していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		外部の方の見学時や、掲示物や実績記録票など目目にふれないように名前の面を裏返しておくなどの対応を心掛けている。	校舎内を第三者の目で見回り、適切に対応していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		分かりやすい指示や具体物を使って示したり見本を見せて活動を行うなど、配慮をしている。	再度お知らせしたり、前日または当日にご連絡した方がいい時は、忘れずに確認する。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6	特に行っていない。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		掲示物で周知したり、一部の利用者様と一緒に実際に避難訓練を行っている。	曜日や時間を変えて、出来るだけ実際の避難訓練に様々な利用者が参加できるとよい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		通常の避難訓練に加え、非常災害の発生をイメージした訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時や新学期、その他変化があった時に保護者様に確認をしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2	クッキングの際、材料を保護者様に提示し、アレルギーの有無などを確認し、安全に配慮している。	主に保護者様からの聞き取りで対応しているため、飲食を伴う活動では必ず確認していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画に基づいて研修や訓練を行い、職員全体が意識出来るようにしている。	安全管理に必要な研修の機会を設け、具体的な訓練を行い安心して支援が行われるようにしていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		安全に活動できるように動きが多い場合は机や棚を部屋の隅に寄せて活動している。またこどもの動きを予測しながら支援している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		安全に留意しながら支援する。ヒヤリハットがあった時は、職員で共有し、再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		職員と日常の活動や具体的な例を挙げながら言葉遣いや関わり方を振り返り、研修を通じて適切な対応を心がけている。	支援や校舎内における言葉遣いや態度、関わり方などについて具体的な事例を踏まえて自分の行動を振り返る機会を設けていく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		やむを得ず身体拘束を行う場合は、事前に保護者に説明して了解を得ている。またそれを支援計画に記載している。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」桃花台校第二単位		
○保護者評価実施期間	2024年11月25日		～ 2024年12月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2024年11月25日		～ 2024年12月18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月10日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育 お子さま一人ひとりの発達・行動面に合わせた個別支援計画を作成してマンツーマンによる個別支援に取り組んでいる。(成長度によって集団療育の実施もあり)	マンツーマンの個別指導で、子供たちの成長・発達した部分を見つけることができ、小さな変化に対して「褒める」ことができそれが、「褒められる経験」「成功体験」となり「自己肯定感」を高めるようにしている。	常にスタッフ間で情報を共有化することにより、柔軟な支援プログラムを構成し提供していく。支援後保護者にフィードバックすることで自宅での生活習慣の充実を図るようご家庭での支援技術のアドバイスに取り組んでいく。
2	ハイブリット教室 ブラジル人スタッフを配置して、言葉の壁をなくすことで保護者やお子さまに安心して通所してもらっている。	支援計画書・専門的支援等をブラジル人スタッフが分かりやすく保護者に説明、普段のフィードバックも実施。日本人スタッフのフィードバックの際は写真などを使って説明している。	ホームページやSNSを通して取組み内容を発信することで事業所周知に取り組んでいく。
3	広い支援室 他事業所に比べると支援室が広く、子どもがのびのびと安全・安心して活動することができる。	イベントの際壁を取り払うなどして、その都度支援に合わせた間取りにする工夫をしている。	子どもに合わせた教材を用いての支援を考え、より安全・安心な支援場所を提供していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ブラジル人校舎と思われており、日本人の方の問い合わせが少ない。	周知活動不足。	社会福祉協議会や相談支援事業所に訪問して周知活動を行う。ホームページやSNSの活用。
2	地域や他事業所との交流が少ない。	一部の学校や事業所との交流はあるが、外部との窓口を広げることが足りていない。	児童発達支援センターが主催する研修等に参加しているのでそこから輪を広げていく。
3	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催が行われておらず、保護者同士の交流の機会が設けられていない。	父母の会や、保護者会の開催の機会を設けていないため、積極的なアプローチ不足となっている。	イベントの際、利用者の兄弟も招待するなどの対応をいづれ取り入れていきたい。また、同様にイベントの開催中に、別室で保護者の方々の交流機会を設けるなどの対応もいづれ取り入れていきたい。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」桃花台校第二単位

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 17名

回収数 15件

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13		2			支援内容によって支援室を変えるなどの工夫をしていく。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	9		5	1	ブラジル人の言語聴覚士の配置人数が少ない	現段階で即座に対応はできないが、いずれ取り入れていきたい
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12		3		改善する必要がある	子どもの安全を第一にし、手をつないだり、ゆっくり歩くことを伝えながら事故防止を心掛けていく
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14		1			フィードバックの際、支援を見てもらい、参考意見を取り込んでいく。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	13	1	1			フィードバックや家族支援の際、疑問点などを聞き、支援に反映できるように取り組んでいく。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	13	1	1			フィードバックや家族支援の際、疑問点などを聞き、支援に反映できるように取り組んでいく。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	14		1			普段からニーズや課題について共有し支援に組み込み分析していく。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13		1	2		説明時に齟齬がないよう確認、疑問点があれば修正していく。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	13		1	1		随時支援見学をしてもらうことで、支援内容の確認をしてもらいご意見を伺う。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10	2	2	1		フィードバックの際、支援を見てもらい、参考意見を取り込んでいく。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	6	2	5	2		いずれ取り組んでいく。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	15					継続する。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15					継続する。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	3	4	1		いずれ取り組んでいく。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	15					フィードバックだけでなく、支援見学も随時行っていく。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11	2	1	1		フィードバックや支援見学等で行っているが、家族支援の機会を増やしていく。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	13		2			概ね、共感的に支援ができていようだが、利用者全体にご満足いただけるよう、職員一同取り組んでいきたい。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	2	7	3		イベントの際、利用者の兄弟も招待するなどの対応をいずれ取り入れていきたい。イベントの開催中に、別室で保護者の方々の交流機会を設けるなどの対応もいずれ取り入れていきたい。	

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10	1	2	2		周知していく。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	13	2				ポルトガル語に訳した文書等での周知や意思の疎通を図る。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	11		2	2	(事業所名での)すべての活動内容が通知されているわけではない	発信できるよう取り組んでいきたい
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15					研修等を行いさらに留意できるようにしていく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11	2	2			保護者にわかるよう可視化や周知をしていく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6	3	3	3	(自分の) 子供は参加していないからわからない	参加できるよう定期的に開催していく。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10	4	1			保護者にわかるよう可視化や周知をしていく。
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11	4				保護者にわかるよう可視化や周知をしていく。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	15					より安心感を持ってもらえるよう支援に取り組んでいく。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	15					それぞれのこどもにあった支援をしていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	14		1			保護者とより密にコミュニケーションをとり支援に反映させることで満足度をあげていく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
こどもサポート教室「きらり」桃花台校第二単位		2025年 2月 15日			
チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	5		集団療育や支援内容によって支援室を区切るなど、工夫をして使用している	同一時間で4人利用が3~4回/週程度ある支援室3体を動かす支援が行えない時があり日時調整の必要性がある。
	2	5		シフトや有休等をうまく組み合わせて配置をしている 現在は1日3人以上配置	
	3	1	4	子どもの安全を第一にし、手をつないだり、ゆっくり歩くことを伝えながら事故防止を心掛けている	階段があるためバリアフリーではない 不自由な場合は1階を使用するなどの対応が必要
	4	4	1	必要に応じて部屋の仕切りを外し、ゆったりと活動ができる空間を作っている	
	5	5		同時間支援の際、子供の支援内容により部屋分けをしている	
業務改善	6	3	2	月2回のスタッフミーティングや朝のプチミーティング以外にも必要な時に適宜行って参画している	
	7	5		保護者へ支援内容のフィードバックする際に把握したことを職員間に落とし込み改善につなげている	
	8	5		月2回のスタッフミーティングや朝のプチミーティング以外にも必要な時に適宜行っている	
	9	3	2	事業所評価等での意見を参考に業務改善に努めている	
	10	5		全体研修や階層別研修の実施 事例検討会など様々な研修に参加できる機会を設けて参加している	
適切な支援の提	11	5		モニタリングや保護者とのフィードバック・支援記録等を通して適切に対応、保護者にも報告・確認をしている	
	12	4	1	支援計画を作成する際は職員間で話し合い、それをもとに児発管が作成している	
	13	5		月2回のスタッフミーティングや朝のプチミーティング以外にも必要な時に適宜行っている	
	14	5		共有は月2回のスタッフミーティングや朝のプチミーティング以外にも必要な時に適宜行って支援に反映している	
	15	2	3	インフォーマルなアセスメントは使用していないが、情報共有は常に行っている。	
	16	5		具体的な支援内容を設定するうえで、普段から支援内容や課題の情報を共有するよう取り組んでいる。	
	17	5		イベント(季節行事)や集団活動では企画会議を行い取り組んでおり、必要に応じてその都度共有している	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		担当スタッフを変えるなど、多数の目で見るようにしている このため常に情報を共有するようにしている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		年齢層を合わせるなど工夫をして実施している	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	3	月2回のスタッフミーティングや朝のプチミーティング以外にも必要な時に適宜行っている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2	月2回のスタッフミーティングや朝のプチミーティング以外にも必要な時に適宜行っている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		月2回のスタッフミーティングや朝のプチミーティング以外にも必要な時に適宜行っている	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		計画の見直しの必要性があれば話し合い、検討している（保護者の意見も聞いて）	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		ブラジル人スタッフもいるため聞き取りをして会議に出席している（児発管参画）	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	必要な時に適宜行っている	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1	必要な時に適宜行っている	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1	必要な時に適宜行っている	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	3	児童発達支援センターが主催する研修等に参加するようにしている	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	4		現在活動する機会はないが、今後機会があれば交流等を行っていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		毎回支援後に時間の許す限りフィードバックや家庭内での様子を確認している	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	フィードバックの際に周知している	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に説明 運営規定は常時閲覧できるようブックスタンドに設置されている	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		アセスメントで確認 常にフィードバックを行うことで確認している		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		計画更新の際同意を得ている ポルトガル語での対応が必要な際は、ブラジル人スタッフの指導員に説明をしてもらっている	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		フィードバックの際、保護者から相談を受けたときは、時間と場を設けて対応している	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	4		今後計画していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		保護者から相談を受けたときは、時間と場を設けて対応している	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	2	メール等を利用して発信している	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		鍵付きの書庫に保管をしている 使用しているPCは離席する際他者から見られないよう配慮している	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		言葉遣いなど、保護者様の立場に立ち配慮して行っている	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4		実施できていないので機会があれば行っていく
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		マニュアル策定年間スケジュールを作成、全社研修を行っている 訓練も実施 こどもも参加	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		策定 訓練も実施	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		持病があるこどもの情報は職員間で共有し、来所時に体調確認を行っている	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	通常、食事の提供はないが、状況に合わせた対応ができるようスタッフ間で共有している 特にイベントの際は再度保護者に確認	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		作成 研修の実施	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		周知するとともに、支援見学を行っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハット報告書を作成 事業所内周知（回覧）を行っている スタッフミーティングでも共有	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		定期的に全社で研修を実施、適切な対応をしている	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5			現在、身体拘束の対象者はいないが、必要があれば相談して検討していく